

蚕糸・地域特産部門

出品財 経営（生糸・絹織物）

“絹を未来に” プラチナボーイ研究会
(代表 木下 幸太郎 氏)

東京都 中央区



1. 地域の概要

“絹を未来に” プラチナボーイ研究会は、特徴ある蚕品種「プラチナボーイ」を使った「モノ」づくりに取り組む、東京都日本橋人形町の絹織物流通業者を代表として、茨城県及び千葉県の養蚕農家、群馬県の製糸業者、京都府及び新潟県の織物・流通業者、東京都銀座の販売店から構成されている。

2. 受賞者の取組の経過と経営の現況

平成 17 年に開発された雄のみが生まれる特徴を持つ蚕品種「プラチナボーイ」を使用し、川上（養蚕・製糸業）と川下（染織・流通・販売業）が一体となって、原料の繭生産から糸繰り、染色、織りまで一貫した純国産絹製品づくりと販売に取り組んでいる。

3. 受賞者の特色

(1) 良い繭づくりから良い製品づくりまで

原糸の原料となる繭「プラチナボーイ」は、卓越した飼育技術を持つ養蚕農家によって生産されており、この原料段階から最終製品に至る各工程関係者の名前を表示して、顔の見える製品づくりを行っている。

また、技術の維持・向上を図るため、各工程関係者がより良い「モノ」づくりを行うという意識を持つことで、良い繭、良い生糸、良い染色・製織づくりにつなげ、より良い最終絹製品が消費者に届けられており、消費者からも「プラチナボーイ」に対しては、「軽くてシワになりにくく光沢が抜群」と高い評価を得ている。

(2) 草木染めと学習活動

プラチナボーイ研究会は、製品販売の拠点となる銀座の街路樹である柳の剪定された枝葉を活用し、鹿児島県奄美地方の泥とともに草木染めの原料としている。

また、製品販売と併せて蚕の飼育展示を行い、着物を着用する顧客に対して生きている蚕を見せるほか、地元小学校において蚕の飼育学習や草木染めの実演指導を始め、子供達への学習活動に協力している。

4. 普及性と今後の発展方向

プラチナボーイ研究会は、商品製作 10 周年記念の作品発表会を平成 27 年 3 月に開催した折、『自分で蚕を飼育し、収穫した「プラチナボーイ」の繭を使用し、自らの企画で製作した着物』という消費者参加型の取組（プラチナボーイ物語）を発表し、顧客の興味を喚起している。

今後は、ロンドンとパリに出店を検討しており、現地在住の日本人に着物の良さやシルクについて再認識してもらう機会になると考えている。また、ロンドン、パリの人達にも着物のアート性を強調した販売戦略をとることとしており、世界に進出する第一歩となることが期待される。